

# ARISENネットワーク

---

静寂の中から私たちは生まれた。

共に手を結び、心を重ね、一つの息吹となって立ち上がる。

たとえ倒れても癒えながら進み、新たな勇気の芽吹きとなる。

そして再び、新たな旅が始まる。

— **ARISEN** —



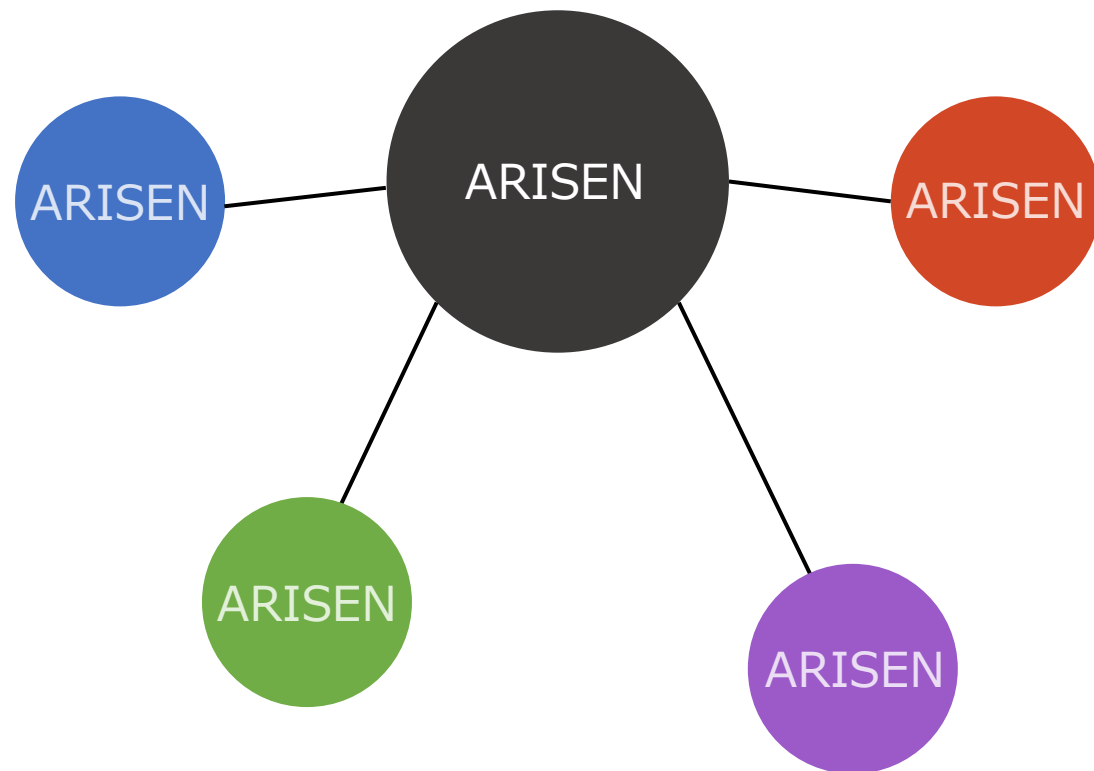
# ARISENネットワークとは？

---

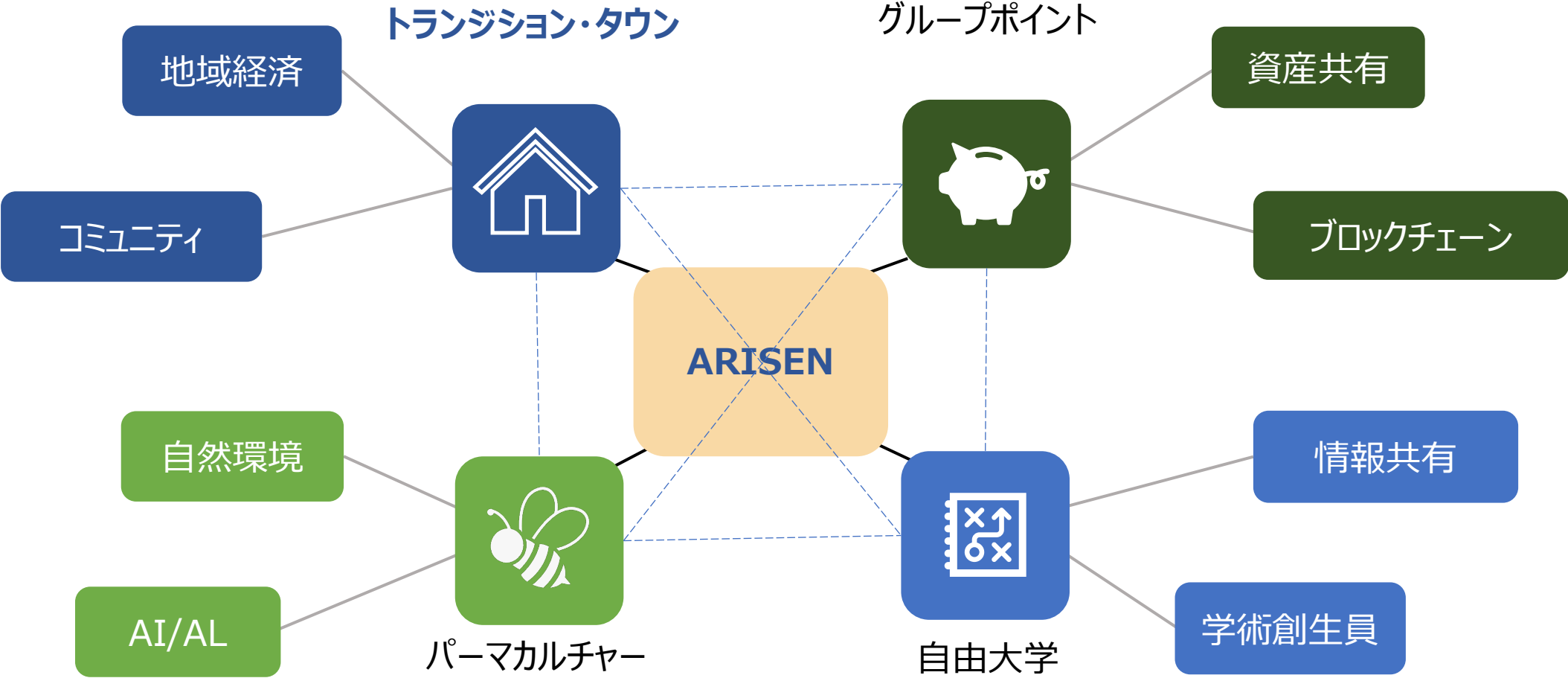
- 一般に、ネットワークに接続される個々の要素は「ノード」と呼ばれます。

ARISENの内部では、複数の分子が自己組織的なネットワークを構築していますが、ARISEN自体も他のARISENと自己組織的なネットワークを構築する可能性を持っています。

このように、ARISENをノードとして構築された自己組織的なネットワークを「ARISENネットワーク」と呼ぶことにします。



# ARISENネットワークの例



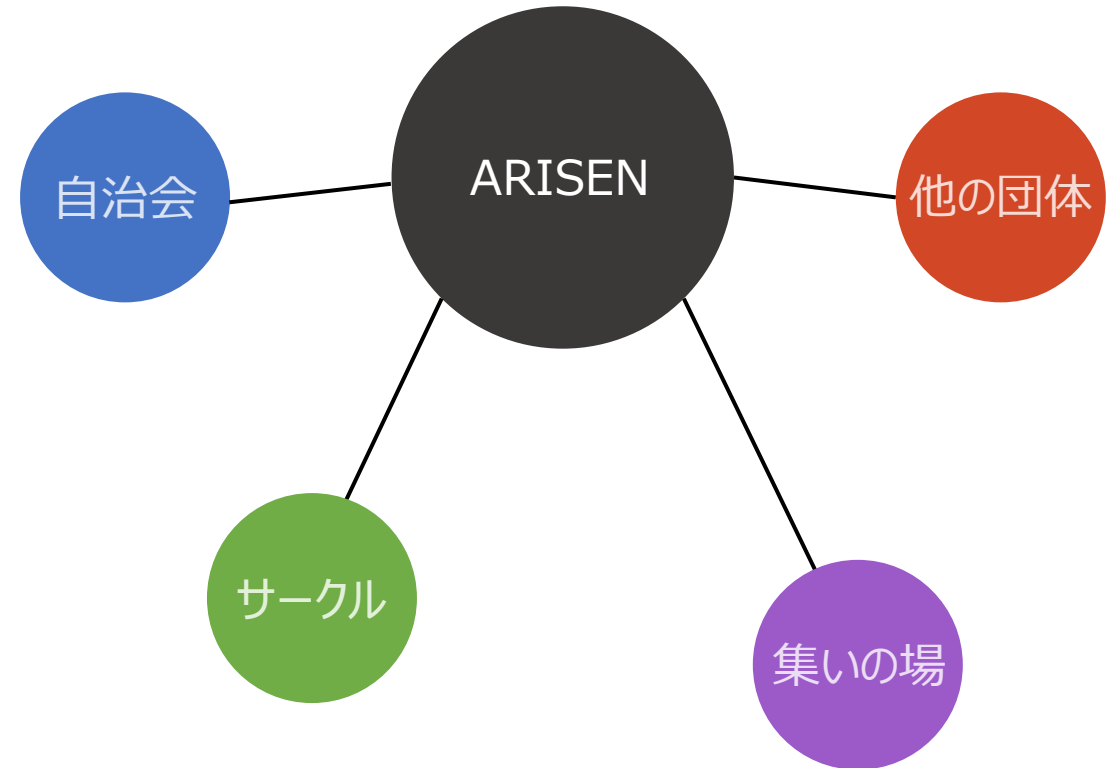
# 非ARISENを含むネットワークは実現可能か？

---

- 非ARISENの団体をノードとするネットワークは実現可能でしょうか？

私の理解では、可能か可能でないかは容易に判断はできません。理由は、どのような仕組みで非ARISENの団体が構築されているのか（現在進行形で過去は問わない）によるものと思います。

つまり、ARISENの仕組みと別の仕組みを使って実現されたノード（非ARISENノード）でも、結果としてARISENノードと同じ働きをするものであれば、ネットワークの構築は実現可能と考えられます。



# ARISENモデルの仕組みとは？

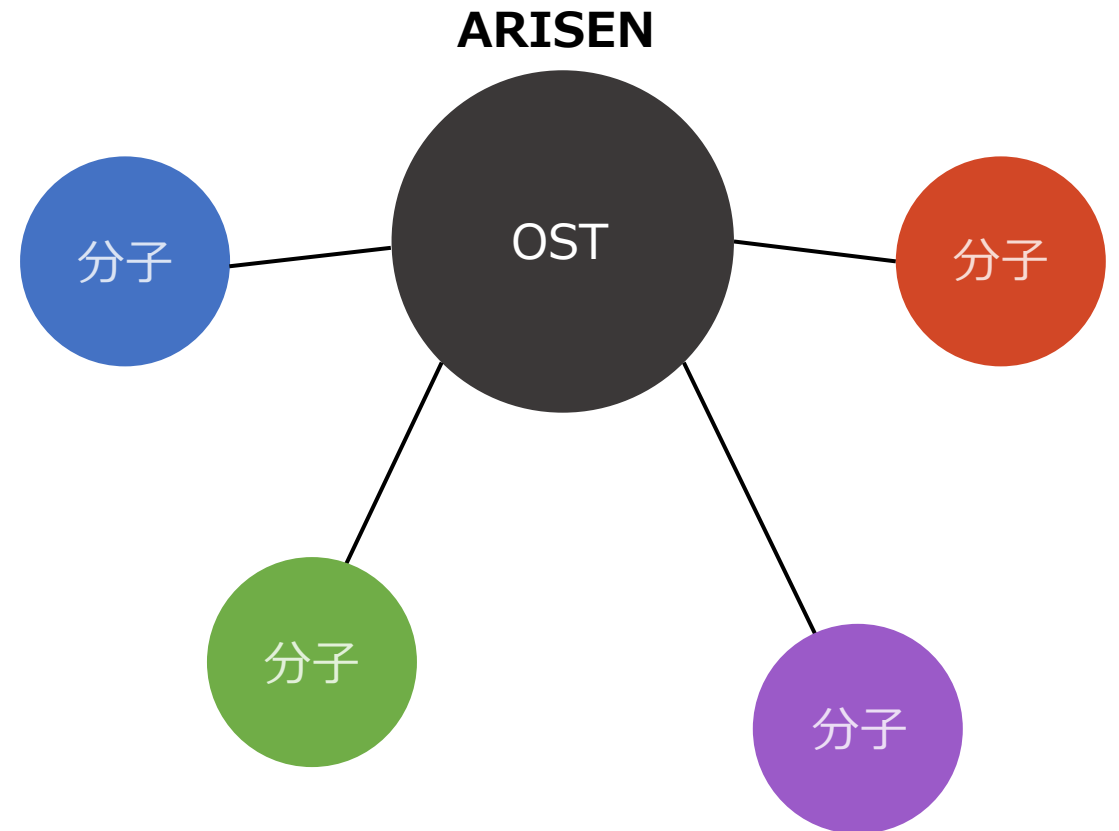
---

- ARISENは単なるモデルなので、この仕組みを何かに適用しようとするときは、具体的に実践できるものである必要があります。

特別な理由はないのですが、私はその何かにOST（Open Space Technology）という具体的な手法を用いることにしました（ただし、一部異なる部分があります）。

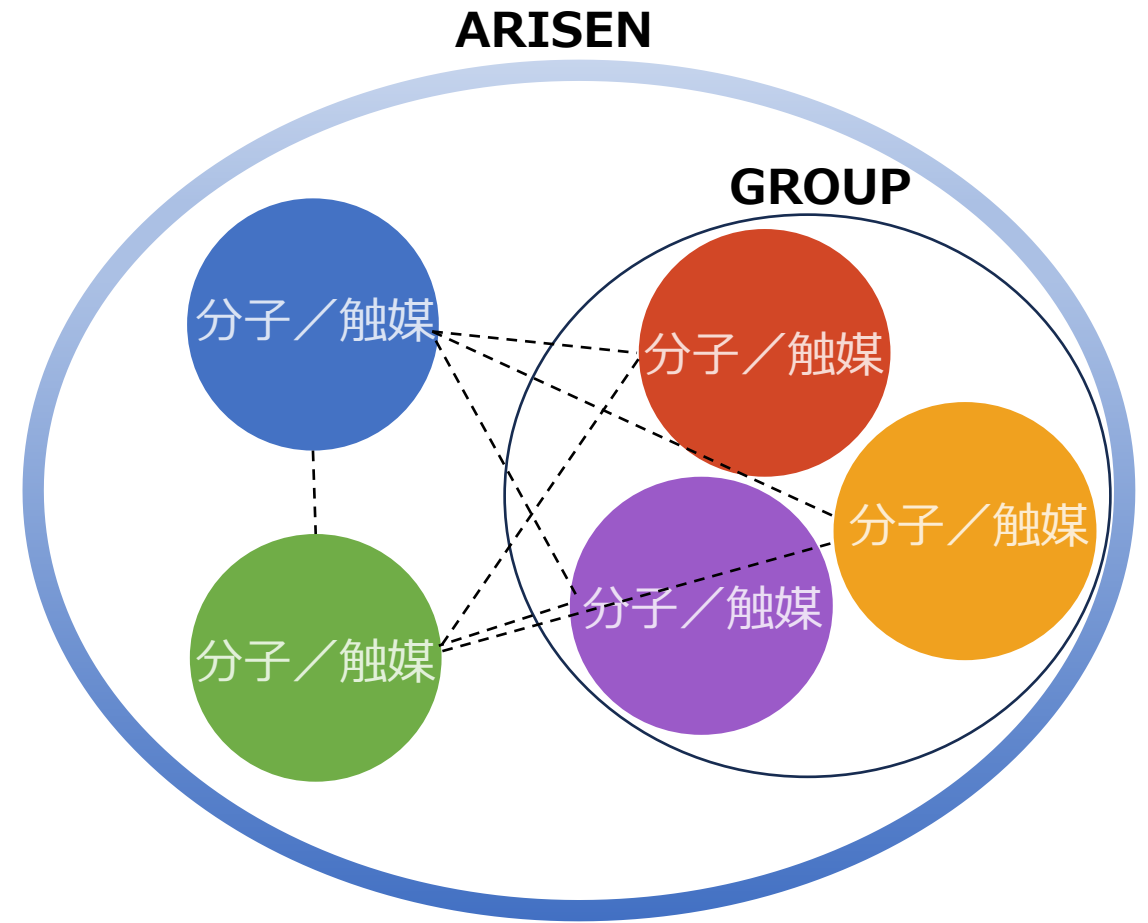
OSTでは、ファシリテーターと呼ばれる人たちが重要な役割を担いますが、これはARISENモデルでは「カタリスト（触媒）」と呼びます。

同様に、OSTでは参加者と呼ばれる人たちのことを、ARISENモデルでは「モレキュール（分子）」と呼びます。



# ARISENモデル

- ARISENモデルで重要なことは、カタリスト（触媒）とモレキュール（分子）の役割が固定されていない（あるときに分子であるものが、別のときには触媒として働く）という点です。また、ARISENモデルでは新しく生成された分子の集団のことをARISENグループと呼びますが、本質的には元の集合に含まれる分子と同等の働きを持ちます。
- この点、例えばOSTではファシリテーター（ARISENのカタリスト）は参加者（同モレキュール）と明確に区別されますし、OSTから生成された個別グループは、元のOSTの参加者と同等であることを明記していません。



# Y.T.モデル&ARISENネットワーク

---

- Y.T.モデル（竹内弥彦先生が提唱するモデル）は、学部卒業生たちが、大学を中心にネットワークを構築することで、その後もお互いに情報交換を行いながら様々な課題に取り組んでいけるように支援することを目的としています。

ARISENは、このY.T.モデルを具体化するために、大学のヘルスプランナーコースを受講する過程で思いついたものです。

ですから、ARISENを単体で適用するよりは、むしろネットワーク全体に適用することが望ましいと考えます。

- ARISENネットワークは、基本的にARISENの本質を継承する必要があります。

ARISENの本質の中でも最も重要なことは、その名称の由来にもなっている「**行動的、持続的かつ復元力がある**」ということです。

そしてその根底には、**誰もが強い意志と責任感を持って参加できる**という設定があり、そのためにトップダウンではなく、**ボトムアップではじめる**ことが強く求められます。

- ※ ただし、ボトムアップとトップダウンは相補的に作用するものであり、入れ替わりながら進化するものであることに注意してください。